

## 奄美ワーキンググループメンバーヒアリング記録（2）

日時：平成 26 年 10 月 7 日（火） 対象者：太田英利

## ■ヒアリングテーマ

○奄美大島及び徳之島における遺産価値の保全にむけた課題と管理方策への提言について

## ■ヒアリング概要

重要な課題としては 生息地の物理的保存、 ノネコによる捕食圧の排除、 希少動物に対する密猟の防止、 の 3 つが挙げられるほか、 在来生物の遺伝子攪乱の防止、 野生動物のロードキルの防止も必要である。

## （1）生息地の物理的保存について

- ・「山地から海岸部まで連続した十分な物理的量を有する自然林」などの、優良な状態の生息地を物理的に維持する必要がある。
- ・林業関係者の提示する枝打ちや下草管理といった森林管理については、林内の乾燥化を招くことから、生物の生息地保全のための管理としては必要ではなく、自然遷移の進行に任せておけばよいと考える。
- ・樹林地だけでなく草地的な環境も利用する種に関しては、両環境の境界部分が重要であり、林縁部の管理方法に関して工夫する必要があるが、森林全体に対して施業を行うという考え方は適切でないとする。
- ・在来植物の多様性は自然林で高い傾向があり、これらの種は森林の乾燥化に伴い消失する。
- ・多様性保全の視点からは人の手を入れず、乾燥させないことが、特に徳之島に関して、重要であるとする。
- ・1983年に徳之島に初めて来島したが、その頃はスダジイ林が海岸近くまであり、樹林を主な生息箇所とするバーバートカゲが波打ち際で確認されるなど島内全体として非常に良好な状態であった。今後これ以上劣化を進行させないことが必要である。

## （2）ノネコによる捕食圧の排除について

- ・1990年代以降にノネコによる影響が顕在化してきた印象を受ける。
- ・徳之島では、以前はケナガネズミの確認が非常に容易であった。
- ・ネコ愛護派を説得し、影響の深刻さ、対策の必要を認識してもらう必要がある。
- ・飼いネコの飼養管理の徹底が必要。
- ・地元だけの議論では収拾がつかない場合、他地域や他国での状況を報告してもらうことが、理解を得る上で有効に機能する場合がある。
- ・TNR(捕獲・不妊手術・放逐)は、処理個体が生存する限り捕食を行いうるため、野生生物の保全上あまり有効な手段ではないとする。

## （3）希少動物に対する密猟の防止について

- ・リュウキュウヤマガメ（ペット）、オビトカゲモドキ（ペット）、イボイモリ（ペット）、シリケンイモリ（漢方薬）等に関して海外への持ち出し事例を聞いている。

- ・昔は個人が数個体を捕獲する状況であったが、今は多数の個体を捕獲・移送している。
- ・他地域からの密猟者立ち入りのほか、地元の人が密猟に関わっていることが問題であると考えられる。モラル、倫理のレベルでどこまで防除できるか懸念される。
- ・日本では規制対象種の密猟に関して違法行為であるという認識が低い印象がある。法の順守への意識を喚起し、違法行為に対して発見、通報、取り締まりの体制を整える必要がある。
- ・天然記念物の指定は、いったん域外に持ち出された個体の国外への持ち出しに関して対策のとりようがない。国外への輸出に対してはワシントン条約附属書Iへの掲載が有効な障壁となる。

#### (4) 在来生物の遺伝子の攪乱防止について

- ・徳之島のイノシシに対してサンプルを収集し、ミトコンドリア DNA の解析を行っているが、2/3 が在来、1/3 が関東由来、ごくわずかに九州由来のものが確認されている。
- ・10 年前に地元住民に対して行ったヒアリングでも、個体数の減少を補てんするために内地から個体を導入したとの証言を確認している。
- ・これら遺伝子の攪乱に関しては、各個体の遺伝子診断、在来個体の隔離、それ以外の個体の駆除という手順での対策をとらざる得ないと考えられる。
- ・徳之島、西表、沖縄本島など、産業振興を意図してイノブタの生産がさかんであるが、飼育個体の管理を徹底して野外への拡散を防除しなければ野生個体との交雑に伴う遺伝子汚染が懸念される。
- ・リュウキュウイノシシは、島嶼ごとに遺伝的変異のある在来の固有亜種であり、重要な保全対象であると考えられる。

#### (5) 野生動物のロードキルの防止について

- ・野生動物に対するロードキルの発生に関しては西表島だけでなく他地域でも大きな問題である。
- ・与那国島では舗装道路の整備後ヨナグニシュウダが激減したという実態もある。
- ・西表島ではサキシマスジオもロードキルにより減少しており、ハブが生息する島では、地元の人がハブへの忌避・嫌悪感から爬虫類を確認した際に意図的に轢くことがある。
- ・自然遺産地域における利用者への適切な対応という観点から、未舗装の林道を舗装することにより走行車両がこれまで以上にスピードを上げて通行するようになるとロードキルの発生は現在よりも増加する可能性があることから、過度の道路整備等の開発に対してはブレーキをかける必要がある。
- ・また、既存の道路に関しては、アンダーパスの設置などの野生動物に配慮した道路構造の改良による保全措置を積極的に行う必要がある。